

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
1	鳥取	鳥取市	株式会社タシマボーリング	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成3年に設立。持続可能な水産業として陸上養殖に着目。本業の井戸掘り技術を活かして地下海水を確保しマサバの陸上養殖事業を令和3年から岩美町網代にて展開。 地域特産品の廃棄部分をサバの餌に活用したブランドサバや、太陽光によるエネルギー供給、地元プロサッカーチーム寄宿舎への規格外サバの提供など、サステナブルかつ地域活性化に取り組む。 女性中心に飼育を行い、女性目線の新たな発想でジェンダーレス水産業を構築。小学校の課外学習や高校生の職場体験等受入も積極的に実施。 令和6年のサバ出荷量は4,829尾、陸上用養殖用井戸受注件数は5件。
2	鳥取	智頭町	特定非営利活動法人自然体験まるたんぼう	団体	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年設立。森のようちえん部門、森のがっこ部門、観察研修部門の3事業を実施運営。 子育て世代の関係人口拡大や、移住促進を目的として自然豊かな智頭町のよさを知ってもらうために取組を開始。 智頭暮らし体験は、町内のおためし住宅や民泊家庭に滞在し、智頭町での子育てや暮らしを体験。 森のようちえん体験は、1日目は親子で森へ行き豊かな自然環境を感じて給食や藍染を楽しみ、2日目以降はこどもたちだけで森へ通い様々な自然体験や仲間との課題解決を経験。 そのほか、町内施設でリモートワークができる、また、ようちえんお迎え後は町内観光を家族で自由に行える。 令和6年の森のようちえん体験(智頭暮らし体験)の家族は9組。
3	鳥取	江府町	農事組合法人宮市 <small>みやいち</small>	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成7年設立。宮市集落を中心として、離農者や高齢化で営農困難者の農地を引き受け地域の農地を維持。 日野特別栽培米研究会、奥大山プレミアム特別栽培米研究会に参加、地域の研究会で特別栽培に取り組む。自社での特栽認証を取得し、特別栽培米コシヒカリを生産。良食味米生産にこだわり施肥設計を研究し、食味コンテスト受賞多数。 食品加工・販売に取り組み、地域の福祉施設や水工場の食堂への出荷。地産地消にも積極的に取り組む。独自のパッケージをデザインし道の駅などの直売所で販売、ふるさと納税品にも出荷。 令和6年の総売上高1,639万円、米直売売上高556万円、米卸売上高127万。
4	島根	松江市	株式会社Mitsu Fisherman's Factory(御津フィッシュヤーマンズファクトリー)	団体	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年に設立。他業種から水産業未経験者をスカウトすることで、地元住民と漁業の立て直しに挑戦。 地元大敷網組合と協業し、水揚げから加工・販売までを担う働き方を確立。最新の鮮度保持技術等も導入し魚の品質と単価を向上。漁村再生と未来志向の産業づくりを推進。 加工品も順調に販路を拡大し、さばの塩辛は累計25,000個を超える販売実績。首都圏や観光地でも評価が高まっている。 インスタグラムや全国メディアを通じて地域の魅力や魚の価値を情報発信し、消費者との関係構築にも貢献。 令和6年度の売上高は1,500万円、さばの塩辛の販売個数は8,000個、イベント出店数は50回。
5	島根	海士町	一般社団法人海士町観光協会 <small>しましきょく</small> 島食の寺子屋 <small>あま</small>	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年設立。地産地消に特化した和食料理学校「島食の寺子屋」を立ち上げ、食や人材の地域課題解決のために人材育成事業、飲食店運営事業、一次加工・食育事業に取り組む。 島食の寺子屋は、1年間カリキュラムを組み、海士町内の食材のみを使用徹底。島外から受講生を受入。 カリキュラムの実践授業で、島内飲食店「離島キッチン海士」にて団体観光客等に島の食材のみを使った料理を提供。島内産品の消費に貢献。 受講生が卒業後に島内飲食店に就職することで、島内飲食店の扱い手不足解消に寄与。 カリキュラムで、町内で獲れた魚を一次加工を施し、町内の学校給食に提供。児童との交流給食を通して食育にも取り組む。 令和6年度は9人が受講し3人が島内就職し、離島キッチン海士の売上高は566万円。
6	岡山県	新見市	くさま 草間カルスト里山の会	団体	<ul style="list-style-type: none"> 草間地区の全戸(約230戸)が参加して令和3年に設立。地域課題解決に向け様々な活動を実施。 農家所得や農業意欲の向上のため、各種イベント時に里山マルシェを開催。 特産品の桃やニューピオーネを利用したコンポートの製造・販売等、6次産業化に取り組む。地元百貨店での販売や新見市のふるさと納税返礼品など販路も開拓。 市観光協会等が行う農業体験ツアーを受入れ。昼食に地元食材をふんだんに使った「けんちんそば」などを提供。 令和5年度から新見公立大学との交流を始め、里山マルシェの手伝いや、地域特産品を活用した新商品開発を共同研究。 令和6年度は里山マルシェを8回開催、イベント等でのそば提供数は1,200食。

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
7	岡山県	美作市	ふあーも りぞーと FARM RESORT あわのわ (東粟倉農泊推進協議会)	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年に美作市東粟倉地区に赴任した地域おこし協力隊員が27年に農家民宿を開始。その後始めた地域を巡るツアー「里山デイズ」推進のため、農家や川魚養殖業者、観光協会等が集まり令和元年に協議会を設立。 個人事業主が連携し、岡山県最高峰「後山」の麓にある地区全体を体験フィールドとして、宿泊型の農村リゾートを展開。 令和元年からグランピングの要素を取り入れ、懐かしさ素朴さなどの田舎の雰囲気は残し、おしゃれで快適な施設として差別化を図り、コロナ禍でも宿泊者数を伸ばす。 昨年度からはリトリート体験の開発も始め、絶景の展望台での屋外映画会など新たな魅力づくりに取り組む。 令和6年度は、体験コンテンツ数が30件、体験参加者数が950人。
8	岡山	矢掛町	やまべ みゆき 山部 美由紀	個人	<ul style="list-style-type: none"> 土井農園の代表として矢掛町特産の「最上干柿」づくりに取り組む。 若年層をターゲットに干柿の規格外品を活用した加工品の開発・販売等、6次産業化にも取り組み、令和5年に国から総合化事業計画認定を受ける。 10年以上前から地元の干柿生産組合から地元小学生への干柿作り体験授業を引継ぎ、干柿の歴史や農業の面白さ等を伝えている。 所属するおかやま農業女子では令和5年、6年に会長を務め、活動をけん引し、10周年記念イベントを地元矢掛町で開催。 令和6年度の干柿生産数は14,300個。
9	広島	広島市	株式会社 中矢建設 白木ジビエセンター もんしや	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年に会社設立。市から有害鳥獣駆除補助業務を請け負い捕獲鳥獣を焼却していたが、命を粗末にしたくない、地域を活性化したいと、令和6年に解体精肉施設(白木ジビエセンター)と総菜製造販売施設(もんしや)をオーブン。 市と連携し有害鳥獣の駆除数増加や個体数管理の効率化に貢献。 白木ジビエセンター併設のもんしやは、センターで解体したシカ肉を使った総菜やシカ肉・イノシシ肉を販売。地元パン屋とコラボした「イノシシメンチカツサンド」、地元のお米を使った「しぐれ煮むすび」、「ジビエミンチカレー」は人気商品。ペットフードも生産・販売。 ジビエ利用を増やすため、硬くない、臭くない、高くないジビエ肉料理を研究。売上も伸び、地域の雇用増にも貢献。
10	広島	福山市	ぐーはっつ GooHats	団体	<ul style="list-style-type: none"> 福山市立大学公式の農業盛り上げサークルで令和5年設立。「福山の農家の魅力をもっと多くの人に伝えたい」と学生視点で取材・体験・発信。食と地域への関心を高める取組。 福山市の「一般社団法人わかいふあーむ」と連携し、トウモロコシ奨学金プロジェクトを実施。販売及び関連イベントを担当。販売収益の一部をインドネシアの高校生へ奨学金として寄附。福山の農業と国際協力を結びつける活動。 市のイチゴ農家を取材し思いやりこだわりを学び、そのイチゴを使ったスマージーレシピを開発し、福山ばら祭りで販売。レシピも配布し家庭で気軽に作れるよう、地産地消の推進に貢献。 サークルのインスタグラムでリール動画を投稿。農家を身近に感じ、「推し農家」として応援するきっかけづくりを目指す。 令和6年度は、農家を3軒訪問、マルシェへ4回出店、主催イベントを1回開催。
11	山口	山口市	やかたばら 八方原の環境を守る会	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年設立。地域の農地、農業用水等の資源・環境の保全のため農業者を始め、農事組合法人、自治会及び老人会なども参画し、地域ぐるみで取り組む。 地域住民の協力を得るため、組織の活動を知らせる広報誌『やかたばら環境通信』を自治会全戸を対象に毎月発行し、令和7年6月時点で217号を発行。 広報誌を通じて地域で行う共同作業や地域防災の必要性を感じた非農家や事業所が共同活動に参加するようになった。 地域の農地はすべて農事組合法人八方原が担い、スマート農業による作業効率化を図り、休耕田や耕作放棄地は皆無。麦作で令和4年度に全国米麦改良協会会長賞を受賞。 地元小学生を対象に、田植えや稻刈り等作業の見学を通じて農業を学べる機会を創出。 令和6年度の多面的機能支払取組面積は約28ha。

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
12	山口	周南市	「かの鹿野の風」プロジェクト	団体	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年設立。山間部の弱みを強みに変える、里山まるごと「木漏れ日計画」をコンセプトに活動開始。 雑木(コナラ)の町中への植栽を開始(累計103本/35ヶ所)。雑木植栽横に木製ベンチ(累計51脚)を設置し住民や来訪者の憩いの場を提供。 92歳の老人が希少植物350種を17年掛け築いた「生きた図鑑の森」保護活動(10年目)。年間約7,000人を集客。 里山オープンガーデン開催(5年目)。直近15,000人集客。20~25前後の庭が常に参加。里山が一番輝く春に開催。第4回から野外コンサートを同時開催。プロ、アマ演奏家がボランティアで出演。 大学や地元中学生との連携も始まった、参加型わくわくガーデン開催(3年目)。350人以上参加。
13	山口	周南市	おおどりひやくじょう 大道理地区百笑俱楽部	団体	<ul style="list-style-type: none"> 圃場整備完了後の平成19年に法面管理を目的に農家6戸で“百笑俱楽部”を立ち上げ、平成24年に百笑俱楽部を組織化。 当初、草刈り作業省力化で圃場法面に張った防草シートは景観を損ねるため、「芝桜」を植栽し、景観保全活動を実施。さらに「芝桜まつり」を開催し都市住民を呼び込み、農産物やその加工品販売で地域住民の所得拡大を図る。 植栽活動などでの地域内外からボランティア募集や、芝桜で文字や絵を描く際の文字のデザインを周南市の専門学校に依頼するなど関係人口が増加。 令和7年には近隣の棚田地域とコラボした「餅つきの実演・販売」などを通じ、他地域との交流・協力関係も深化。 令和6年度の芝桜まつり訪問者数は約8,700人。
14	山口	周南市	ほうびちゃ HOVICHA	団体	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年設立。限界集落・苔谷で、耕作放棄地活用の無農薬よもぎ栽培を開始。農業法人や苔谷地域の耕作者と連携し無農薬よもぎの安定供給体制を構築。地域資源のよもぎを“飲む香り”として心身を整える効能に着目し再価値化。発酵和紅茶や乾燥葉、オイルなどへ展開する「HOVICHA」ブランドを確立。よもぎオイルの抽出・加工は地元企業に委託。 農福連携にも取り組み、葉の摘み取りなどに障がい福祉サービス事業所が参画。高齢農家や障がい者就労支援の場を創出。 環境負荷の少ない無農薬栽培・加工を基本とし、循環型・持続可能な農業の実現を目指す。農地再生の取組は周南市、山陽小野田市、周防大島町と県内3か所に拡大。販路拡大で地域へ収入還元、関係人口増加などに貢献。 令和6年度は収益が350万円、よもぎ使用商品数は7アイテム。
15	徳島	鳴門市	株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂	団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社大塚製薬工場の本社社員食堂は昭和63年に開設され、当初から外部委託ではなく、直営方式で運営。徳島県産の食材を活用し、製薬会社としての知見を活かしたメニューを開発。メニュー提供時には健康効果などを情報発信し、社員の食への関心を向上。 地域へ貢献したいとの想いから地産地消に取り組んでいる。生産者と定期的に意見交換を行い、収穫状況に応じてメニューを柔軟に変更。生産者との直接取引の食材数は、年々増加しており、信頼関係の深化が、より質の高い食材の安定調達と、生産者の経営安定化という好循環を生んでいる。 また、規格外品やこれまで廃棄されていた部位を社員食堂で利用することで、生産者の収入増ややりがいにつながるとともに、フードロス削減にも貢献。
16	徳島	鳴門市	JA徳島県徳島北女性部	団体	<ul style="list-style-type: none"> れんこんは徳島県の特産品であるが、その葉は収穫前に廃棄されていた。未利用資源の活用と健康志向の高まり、さらに地域資源を活かした商品開発による地域活性化を目的に、JA徳島県徳島北女性部では「れんこん葉茶」づくりの取組を始めた。 市場のニーズを反映したれんこん葉茶の改良や販売促進活動のため、直売所等で販売することで、消費者と直接的なつながりを築いた。 また、れんこん葉茶は「コウノトリおもてなし認証」を取得。そのことが、地域全体の農産物のブランド向上につながり、他の特産品の販売促進にも寄与。 さらに、加工に携わる女性たちは、地域の課題解決やイノベーションの推進者として重要な役割を果たしており、リーダーシップを発揮できる場の創出につながっている。

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
17	徳島	阿南市	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム(徳島県立阿南光高等学校)&刈草バイオマス工房・みらい	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチームは、地域の課題を背景に、資源循環型肥料を開発を目指し、平成23年に徳島県立阿南光高等学校を中心にチーム設立。刈草・バイオマス工房みらいと連携し活動している。 ・河川や道路・公園等の維持管理で発生する刈草が毎年多額の経費をかけ焼却処分され、二酸化炭素を排出していることを知り、刈草を堆肥として再利用することを発案。刈草を発酵分解する微生物を探すなどの試行錯誤を重ね、平成25年に土壤改良剤「もったいない2号」を開発・商品化。 ・「もったいない2号」に植物の種を添えた「ミニ緑のかーテンセット」を環境教材として市内や徳島駅前などで配布し環境問題の啓発に取り組んだ。また、県や市など行政と連携し、県の運動公園内でリサイクル施設を事業化。年間刈草16tから8tの肥料を生産。 ・緑のかーテンづくりの出前授業などを実施。チームによるワークショップは全国各地でこれまで50回近く開催。県内他地域の里山保全活動や町おこし活動、絶滅危惧種の保全活動を実施し、学校や地域を超えて様々な活動へと発展。
18	徳島	吉野川市	徳島県立吉野川高等学校	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴門ワカメの未利用部位の大量廃棄による処分費や二酸化炭素排出という課題解決のため、先輩が立ち上げた「廃棄ゼロ」プロジェクトを継承。鳴門ワカメの未利用部位を農業・林業資材(ワカメ資材)として再利用し、廃棄削減と環境保全、地域産業活性化を目指している。 ・ワカメ資材を使用したトマト、藍、スギ苗の栽培により、苗の健全な育成や生育促進、土壤物理性の改善、肥料成分としての有効性が確認され、さらに二酸化炭素削減や資材使用量の低減など、環境負荷の軽減にも寄与する成果が得られた。また、ワカメ生産者の廃棄処分にかかる費用の削減も期待されている。 ・農林水産省主催の第1回みどり戦略学生チャレンジ中国四国ブロック優秀賞を受賞。さらに「ディスカバー農山漁村の宝地方サミットin四国」で事例発表し、活動を広く情報発信。
19	徳島	三好市	いかわあかね 井川茜保存会「茜の杜」	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年に三好市井川町で、古代の赤色染料として貴重な茜の自生を確認。これを契機に、古代の色再現と地域振興を目的とし、令和3年に井川茜保存会「茜の杜」を設立。耕作放棄地を再生し茜を栽培し、茜製品の開発・販売や地元小中学生や地域住民への体験活動を通して、地域活性化に取り組む。茜が生育しやすい環境づくりを試行しながら、地域において植物や自然への理解を深めている。 ・茜染めの方法を研究し、素材により多様な発色となる染色技術を習得。これにより、ストールやハンカチなどの製品を開発。令和4年からは、JR四国が運行する観光列車車中で販売され、国内外の観光客から好評を得ており、茜染めの認知度の向上につながった。 ・くわえて、地元小中学生を対象に茜染め体験会を開催し、地域の宝である茜を伝える活動を展開。地域交流拠点施設では茜染めの暖簾を掲げ、来訪者に茜染め文化を紹介。
20	徳島	勝浦町 上勝町	いしかわみお 石川 美緒	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年に東京から勝浦町に移住し、みかん農園を継業。農業未経験ながら50aからスタートし、現在は1haに拡大。農閑期は古民家改修の民宿を経営し、農的暮らしを体験できる場を提供。 ・令和6年、規格外品や地域資源を活用したジェラートブランド「TONPUKU」を立ち上げ、上勝町に店舗をオープン。イタドリ、ヨモギ、ニッケイなど山の草木やつまものなどの地域資源を活用し、地元農家の収益向上等に貢献。 ・自社農園やジェラート事業を通じて、移住者や県外からの雇用を創出。関係人口の拡大に寄与。 ・勝浦町や上勝町と連携し、イベントや県外出店に積極的に参加。関西万博でもジェラートを販売し、地域の魅力を伝える商品として高評価を得た。
21	徳島	那賀町	徳島県立那賀高等学校 地域探求同好会	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・木頭ゆずの収穫ボランティアに参加した生徒が、未利用資源の活用に関心を持ち、令和4年に活動を開始。授業の実習で出るカンナくずも対象に加え活動を展開。令和6年度から正式に部活動として「地域探究同好会」が発足。「放置ゆずプロジェクト」として、耕作放棄されたゆず畠の環境整備を実施している。 ・搾汁後のゆずの果皮やカンナくずなどの新たな利用法を検討し、化学実験やイベントを企画。令和6年度には、地元企業と協働しゆず果皮使用の「ゆずコンフィ」を開発し販売。 ・また、協力者も年々増加しており、地域住民がアドバイザーを務めるファシリテーション研修を日常的に実施。生徒の意識とスキルも向上し、授業内でも議論を進める役割を担うようになった。 ・さらに、ヤマザクラの植樹や那賀川源流域の食害防止活動など、環境保全にも積極的に取り組むほか、徳島大学の地域研究サークルと協働し、地方創生に向けた活動も展開。

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
22	香川	高松市	香川大学 Bonsai☆Girls Project	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市の盆栽の魅力を、女子大生の目線からPRするために平成24年に発足。認知度がそれほど高がない盆栽の「男性・年寄り・高価」という一般的なイメージと真逆の女子大生が普及するプロジェクト。 ・一年を通して、若者や女性をターゲットとした盆栽教室、苔玉づくりワークショップ、フリーペーパーの作成、SNSによる情報発信などを主として活動。企業の依頼でイベントに出店し地域の方との交流も多い。 ・作成したフリーペーパー「ZINE」を高松市内の各所に配布、X・Instagram・Facebook等のSNSによる情報発信を行い、盆栽についてあまり知らない・興味のない若い世代が盆栽に触れる機会を創出。Instagramは海外のフォローも多く、現在のフォロワー数は1.6万人。 ・令和6年度は苔玉ワークショップを281回開催。
23	香川	三豊市	あさ 麻環境保全会	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払への取組を契機に、学校教育と連携した農業啓発活動や農業用施設維持管理を地域全体で行い、地域の環境資源や文化を後世に継承するため平成26年に設立。 ・活動開始以来、地域の小学校や幼稚園と連携し、農作物の植栽・収穫体験、田んぼに親しむ泥んこ遊びや啓発用看板の作成・設置など、非農家も含めて取り組む。 ・老朽化した地域内の水路や農道などの農業用施設を腕に覚えのある住民が直営施工チームを組織し施工。受益者が軽作業を手伝い、コストを縮減。 ・コウノトリが飛来し、ホタルが生息する清流があるなどの環境に恵まれ、令和2年度から遊休農地を活用した飼場の環境整備や、幼稚園児によるホタル幼虫の放流、景観植物の植栽などに取り組み、地域コミュニティの土台である美しい農村環境を維持保全。 ・令和6年度は直営施工の水路・農道補修更新が延長約400m、農業体験学習・収穫体験に小学生・幼稚園児約380人が参加。
24	愛媛	松山市	公益社団法人松山市シルバーパートナーネットワーク	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和62年設立。農業を振興保全できるシルバー人材を育成し、農業を活性化するため、地域社会と連携した取組を平成24年から開始。 ・平成28年から耕作放棄地を再生し伝統野菜「伊予絹蕪」の栽培をスタート。令和3年度に1名の新規就農者を輩出。まつやま郷土料理研究会を発足し、伝統の味と技術を次世代に継承する担い手をまつやま郷土料理マイスターとして育成。 ・令和5年から農園「シルバーFarm平井」を運営。畑を中心に会員や地域のお年寄り、若い世代が関わるウェルビーイングを推進し、地域の活性化に貢献。隣接する介護施設とも連携。 ・会員向けSNS、センター内の販売、地域マルシェへの出店、農園での産地直販など多様な販売チャンネルを確立。 ・農業の楽しさと生産性向上を両立させるため、農業DXも積極的に導入。農産物栽培アプリの活用により、初心者でも楽しながら栽培技術が向上。
25	愛媛	松山市	は つ ぶ HAPP (Hojo Agriculture Professional Production)	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北条地区青年農業者連絡協議会が平成22年HAPPに名称変更。現在、50才未満農業者を正会員、50才以上農業者を協力会員、資材業者や金融機関、農機メーカー、量販店、税理士等他業種からの参加者を特別会員として活動。 ・月1回、特別会員による情報提供等の勉強会を開催。 ・新規就農者のサポート・農地空き家情報提供、金融機関・関連企業との繋ぎ等)を実施。 ・組織の認知度向上のためラジオ番組等で情報発信。 ・企業と連携して県のスマート農業関連事業に取り組む。 ・令和6年度の新規就農者数は3人、会員数は、正会員20人、協力会員10人、特別会員9人。
26	愛媛	大洲市	愛媛県立大洲農業高等学校	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生主体のバショウの有効活用による地域資源の再生と、農業・文化・福祉をつなぐ循環型地域づくり推進の取組。 ・使用者減少で放置され景観悪化や耕作放棄の一因となっていたバショウの有機肥料化や和紙への活用、農福連携による加工販売で、農業を核に循環型地域活性化モデルを構築。 ・令和6年度に企業と連携し、バショウと下水汚泥を原料とした有機肥料を開発・提供し、近隣の果樹農家を対象に試験栽培を実施。土壤の保水性・排水性の大幅な改善を確認。 ・福祉施設と連携してバショウの葉を原料とした果実袋を作成。また、企業と共に芭蕉和紙を開発しクラウドファンディングや県内展示会を通じて22万円の売上を達成。 ・ESD教育として地元小学生100名以上に展開。地域文化の継承にも寄与。 ・脱炭素チャレンジカップ全国大会高校生部門で第2位を獲得し、他地域から視察が年5回以上と注目を集めている。

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」地方奨励賞に選定した団体及び個人

No.	県	市町村	団体名 / 氏名	部門	取組の概要
27	高知	室戸市	高知県立室戸高等学校	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ世界ジオパークを教育に活用し、市や大学と連携し地域の未来に貢献する人材を育成。地域探究活動や国際交流を通じ地域資源を発信し地域活性化を推進。 ・生徒は地質・自然・文化を調査し、観光客向けジオツアーの企画・ガイド、防災イベント、地域PR動画制作など実践活動。 ・室戸岬に繁茂する侵略的植物であるウツワサボテンの除去と利活用のためにスマージーなどの商品試作をするほか、環境保全とSDGsの両立を意識して地域特産物の需要創出に取り組む。 ・ジオパークを通じマレーシアやインドネシアの高校生と防災・減災について情報交換を実施。 ・活動は全国高等学校グローバル探究オンライン発表会で金賞を受賞するなど高く評価され、高校生による地域と世界をつなぐ新しい価値の創出を実現。
28	高知	安芸市	安芸市農福連携研究会	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年、福祉分野での就労受入れ先、農業分野での労働力不足の問題解決に福祉分野と農業分野が連携するため本研究会を立ち上げた。 ・市や県の農業及び福祉の担当部署、特別支援学校、医療機関、JA、その他関係機関がメンバーとして参加。 ・農業の担い手確保や農地等の維持活用、障害者等の就労機会を確保について、支援体制と連携を確立。 ・農家は、障害者等がいきいきと働く姿に好感を持ち、障害者等の堅実な仕事ぶりで収量の増加を感じるなど労働力不足の解消にとどまらない効果を実感し、地域は、生きづらさを抱えた人や障害者等の雇用に期待。
29	高知	四万十市	高知県立幡多農業高等学校	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十市からの相談を元に令和4年11月から幡多農業高校で作った農産物を小中学校の給食に提供する取組を開始。 ・地産地消と食育を目的に持続可能性を重視した供給システムを構築。園芸システム科を始め全4学科が参画し、米、野菜、マーマレード等を共同生産。 ・一部品目のGAP認証取得やIPM・自然素材活用の安全・環境配慮型農業を実現し、ICT管理で作業進捗と品質を共有・可視化。これら体験を通して生徒の農業経営力等を育成。 ・食育交流活動で小学生と交流し農業理解と地域愛を醸成。令和6年の給食提供数は30,000食。
30	高知	四万十市	やまもと みか 山本 美加	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年の夫のリターン就農数年後に就農。平成13年の米価下落を機に野菜栽培に転換。現在はナバナ、ラッキョウ、青ネギを約20haで栽培。 ・「農業に未来を 若者に農業を」をスローガンに、若者や女性が働きやすい環境づくり、園児から高校生を対象に農業や農家の暮らしの魅力を伝える活動を推進。 ・若者等の雇用につなげるため、福利厚生の充実、環境整備(男女別トイレ設置、休憩室整備、作業毎の手順書作成、作業の見える化等)、グローバルGAPに取り組む。 ・地元の保育園児や小中学生を対象にした出前授業や農作業体験では、農家はみずから取組が結果に結びつく職業であることを伝えている。また、首都圏の小中学生や高校生を民泊で受け入れ、農作業体験や地域食材を使った実習を通じて高知の食の魅力を伝えている。 ・令和6年からはInstagramで農作業の様子を情報発信。 ・平成6年度の雇用は、女性30人、若者3人。
31	高知	四万十市	りん	団体	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年、多業種の民間事業者が集まり、子供たちが自然と触れ合える場の提供や文化伝承、休耕地を活用した体験型子供向け食育活動を実施するグループとして設立。 ・農作物の種まきから収穫、料理、販売、コンポスト化の一連の循環を、多業種のメンバーが企画ごとに専門性を生かして実施。 ・栽培方法は、環境保全や持続可能な循環型の方法を考慮し、無農薬・減農薬栽培を採用。 ・季節ごとの体験メニューを用意し、品目に応じた種まき、定植、収穫、試食、料理、販売などを実施。 ・参加者は園児(地元幼稚園の行事の一環)、幼児から児童(一般公募での食育企画)、親(見学自由)など。 ・スタッフや運営資金の増加や、一年を通して子供たちの笑顔と成長の姿が見られるなどの成果。 ・令和6年度の食育体験参加人数は320人。